

当館は平成17年度に、洋画、日本画、工芸など9点の作品を新しく収集しました。ここで紹介するのは、その中の1点で《縄文》というタイトルの彫刻です。

この作品は、鳥取県日野郡二部村（現・伯耆町二部）出身の辻晋堂（1910年～1981年）によるものです。彼は、独学で彫刻を学び、その後も時代の風潮に流されることなく独自の彫刻世界を形成し、世界にその名を広めた孤高の彫刻家です。

作品は陶でつくられています。陶板の表面に施された縄目と幾何学的な装飾文様は、どこか日本的で土俗的な味わいを醸し出しています。また、扁平な陶板の自在な組み合わせと作品上部に施された量感表現は、陶の鈍重さを軽減させる高度な造形技術といえるでしょう。

当館は、既に辻の陶彫作品を5点収蔵していますが、このように複雑で変化に富んだ陶板の構成と、装飾的文様を併せ持つ作品は他に例を見ません。この作品の収集により、辻の真骨頂である陶彫分野のさらなる充実が計られたのです。



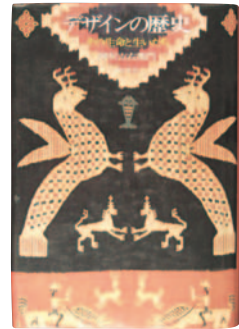
辻晋堂《縄文》1960年

（美術担当学芸員 福田 雪江）

『デザインの歴史』（=写真 1974年、講談社発行）。インドネシアのカラフルな染織品が表紙になったこの本を書いたのは、日本を代表する染色作家・芹沢銈介に弟子入りし、のちにアイヌの文化を題材にした型染め版画などを多く制作したことで知られる鳥取市出身の染色作家・岡村吉右衛門（1916年～2002年）です。

この本の中で岡村は、首飾りに始まって木工品や染織品、さらに土器やしめ縄まで、古今東西のさまざまな手仕事の品々を引き合いにだし、その製法や特徴について紹介しています。染色品ばかり作っているはずの作家がなぜこんな本を書くのだろう、と不思議に思われるのですが、そこには二つの理由があります。一つは、彼が強い影響を受けた日本民藝運動の指導者・柳宗悦やなぎむねよしから、「作品制作と工芸研究の同時進行」をすすめられたということ。そしてもう一つには、もともと旺盛な知識欲を持っていた岡村が、制作を重ねるうち、自分に影響を与えた品々が作られた背景、ひいては人間が作るあらゆる「モノ」の成り立ちについて、さらに深く知りたくなっていったということが挙げられます。

作品制作の合間に彼は、沖縄や北海道、東南アジアなどを訪れ、現地の人々の話を聞き、生活の中で使われる



岡村吉右衛門著『デザインの歴史』

多様な品を集め、それをもとに多くの本を書きました。なかでもこの『デザインの歴史』がユニークなのは、人類の進歩にともなう技術と形態の変遷ではなく、作り手個人の中でデザインが発想されてから形になるまでの過程全体を「歴史」として捉えている点です。ここにあるのは実作者ならではの視点です。

デザインとは何か、どうあるべきかを追い求める意志に貫かれたこの本は、「モノ」の成立にこだわり続けた岡村の基本的な姿勢があらわされている代表的著作であると同時に、ものづくりに関心のある人には大いに参考になる指南書と言ってよいでしょう。この本はもう絶版になっていますが、インターネットの古書検索で探すとヒットすることもありますので、手に入れることはまだ可能だと思います。ぜひ一度手にとっていただきたい一冊です。

（調査担当学芸員 三浦 努）

連載

学芸員という仕事 第1回

はじめに簡単に自己紹介をしましょう。私はこの1月に美術振興課に赴任した尾崎といいます。学芸員という仕事を始めて、もうすぐ20年になります。これまで兵庫県立近代美術館（現兵庫県立美術館）、国立国際美術館、京都国立近代美術館という関西の三つの美術館で学芸員として仕事をしてきました。展示の方針やコレクションについて三つの美術館はそれぞれに個性がありますが、学芸員という仕事の内容はどの美術館でもさほど変わりません。しかし学芸員は基本的に裏方の仕事ですから、実際にどのような仕事をしているか、イメージすることは難しいかもしれません。

これからこの誌面を用いて美術担当の学芸員という仕事の現実について多少なりとも皆さんに伝えていこうと考えています。

学芸員というなやらぐめかしく感じられますが、英語で「キュレーター」と言えば、とたんにお洒落に聞こえます。私が仕事を始めてしばらく経つと、「キュレーター」は人気稼業となつて、新たに募集すると何十倍という倍率の応募者が殺到することもありました。しかもその頃はバブル景気の最中でしたから、「キュレーター」の回りは今日では想像もつかないような景気のよい話にあふれていました。その頃は私も若く、遊び盛り。まさかこの先自分の勤務してい

る美術館が阪神大震災の直撃を受けたり、大阪の都心へ移転したり、ショッキングな体験を次々に味わうことになるとは想像もしていませんでした。しかしもっと予想できなかったのは当時、栄華を誇っていた多くの美術館が10年余りのうちに今のような冬の時代の中にむぎむぎと飲み込まれてしまったことです。

やや先走ってしまったでしょうか。次回からもう少し詳しく美術担当の学芸員という仕事についてお話したいと思います。

（美術振興課長 尾崎 信一郎）

新しくなった「山陰海岸学習館」

鳥取県立山陰海岸自然科学館は、山陰海岸国立公園のビジターセンターとして、1981(昭和56)年に開館しました。それ以来、夏季の来館者を中心に年間およそ1万人前後の人々に利用していただきました。特に、夏の「磯の観察会」では、毎回定員いっぱい親子連れが参加し、普段は体験できない内容を楽しむことが出来ました。

この自然科学館が、4月から県立博物館の施設として再スタートします。館の名称も「山陰海岸学習館」に変更されました。

これまでと大きく違う点は、専門の学芸員が常駐することです。これにより、ビジターセンターとしての性格を高め、来館者に対してもきめ細やかなサービスの向上を図ります。各種の講座も年間を通して計画され、今まで以上に多くの人に山陰海岸の魅力を見て、知って、体験していただきたいと考えています。

また、施設・設備面でも、年間を通して館内の冷暖房が出来る設備の導入工事を実施中です。さらに女性用トイレと障害者の方のためのトイレを新設しています。

今後とも、山陰海岸の美しい自然を地形・地質、岩石、動植物及び環境などの側面から理解することで、国立公園をより楽しんでいただきたいと思います。

(副館長 安藤 重敏)

鳥取県立博物館 山陰海岸学習館

■開館時間：9時～17時 (7/1～8/31の間の土曜日は18時まで)

■休館日：原則として月曜日(祝日の場合は翌日) 7/20～8/31の間は無休

【お問い合わせ】〒681-0001 鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話・FAX：0857-73-1445

野外観察会

① 「ウォーク・in・山陰海岸」春

■日時 5月3日(水・祝) 9時30分～15時 ※荒天中止

山陰海岸学習館から羽尾岬の竜神洞まで歩き、探勝路沿いの地質・地形や植物について観察します。

【詳細】対象：小学生以上(小学生は原則、保護者同伴)、定員：30名(先着順)、要申込、申込受付：4月23日(日)～、電話のみ、参加料：保険料50円、持ち物等：雨具、弁当、歩きやすい服装、帽子等、集合：山陰海岸学習館

② 「山陰海岸写真撮影会」

■日時 5月28日(日) 10時～14時 ※荒天中止

デジタルカメラを使って山陰海岸のすばらしい景観を撮影します。その後、学習館で作品の鑑賞会を開きます。

【詳細】対象：小学生以上(小学生は原則、保護者同伴)、定員：30名(先着順)、要申込、申込受付：5月19日(金)～、電話のみ、参加料：保険料50円、持ち物等：雨具、弁当、デジタルカメラ、集合：山陰海岸学習館

③ 「磯の観察会」

■日時 1：7月22日(土) 9時～12時 4：7月30日(日) 9時～12時
2：7月23日(日) 9時～12時 5：8月5日(土) 9時～12時
3：7月29日(土) 9時～12時 6：8月6日(日) 9時～12時

(海の条件によって観察できるものが異なります。)

※荒天時は学習館内の展示解説

熊井浜で、実際に海に入って海の生き物の観察をします。
【詳細】対象：一般(中学生以下は保護者同伴)、申込受付：当日集合時、参加料：保険料50円、持ち物：水の中めがね、スノーケル、タモ等(持っている方のみ)、集合：山陰海岸学習館

自然講座

① 「魚の絵を描こう」■日時 4月23日(日) 10時～11時、14時～15時 (同一内容)

魚のはく製をよく見てスケッチします。【詳細】対象：小学生以上(小学生は原則、保護者同伴)、定員：各回20名(先着順)、申込不要、参加料：無料、持ち物：色鉛筆、鉛筆、消しゴム

山陰海岸のレクチャー講座 「地形・地質」 ■日時 5月7日(日) 13時30分～14時30分

山陰海岸のレクチャー講座 「動物」 ■日時 6月4日(日) 13時30分～14時30分

山陰海岸のレクチャー講座 「植物」 ■日時 7月9日(日) 13時30分～14時30分

山陰海岸国立公園の特色や、地形・地質、生息する動物や生育する植物の種類、観察のポイントなどについてお話しします。【詳細】対象：小学生以上(小学生は原則、保護者同伴)、定員：各回30名(先着順)、申込不要、参加料：無料

③ 「海そう標本の作り方」■日時 1：7月22日(土)13時30分～15時30分 2：7月23日(日)13時30分～15時30分 (同一内容)

海そう標本の作り方を学習します。【詳細】対象：小学生以上(小学生は原則、保護者同伴)、定員：各回30名(先着順)、要申込、申込受付：7月11日(火)～、電話のみ、参加料：無料、持ち物：新聞紙3日分、筆記用具、服装：足元が濡れても良い履き物(ビーチサンダル等) ※午前の磯の観察会(1、2)に参加すると、自分で採集した海そうを標本にできます。本講座のみに参加される方の海そうは学習館で準備します。

④ 「化石レプリカを作ろう」■日時 8月12日(土)10時30分～12時 13時30分～15時 (同一内容)

三葉虫またはアンモナイトのレプリカを作製します。【詳細】対象：小・中学生(小学生は保護者同伴)、定員：各回20名(先着順)、要申込、申込受付：7月29日(土)～、電話のみ、参加料：無料、持ち物：新聞紙1日分、ナイロン袋、ハサミ

※申込は山陰海岸学習館へ

常設展示

【1階 美術展示室】

鳥取県にゆかりのある仏像、工芸品等の常設展示のほか、下記の計画で近代以前の絵師の作品を展示します。

会期	展示名	
4月26日(水)～6月4日(日)	近世美術1『土方頼嶺』	鳥取藩絵師・土方頼嶺(1741～1807)の作品を展示・紹介します。
6月7日(水)～7月17日(月)	近世美術2『黒田頼臈ほか』	鳥取藩絵師・黒田頼臈(1787～1846)や小畑頼升(1812～86)の作品を展示・紹介します。
7月22日(土)～8月27日(日)	『子どもたちのためのアート・クルーズ』	子どもたちを対象にした夏休み企画です。ワークシートをつくり鑑賞の一助とします。
9月2日(土)～11月12日(日)	博学連携企画『W.B.K.タイトル・マッチ』	学芸員と中学校美術教師による連携企画です。美術作品鑑賞の一方法を提案します。

【2階 近代美術展示室】

鳥取県にゆかりのある、近現代の美術作品を展示します。

会期	展示名	
6月20日(火)～7月30日(日)	『色彩美術館Ⅰモノクローム』	「黒と白」という色彩をテーマにしたコレクション展です。
8月12日(土)～8月27日(日)	「大久保英治とたどる 木喰上人の道Ⅰ」ドキュメント展	平成17年に実施した、ウォーキング・ワークショップ「大久保英治とたどる木喰上人の道Ⅰ」の中で制作された作品や記録写真などを展示・紹介します。

巡回展

◆県立博物館所蔵資料による巡回展。お近くの会場でご覧ください。

【自然部門】

「鳥取県版

レッドデータブックの生きもの」

自然と共生する地域づくりの参考としていただくため、鳥取県における絶滅のおそれのある野生動植物を、剥製やレプリカ等で紹介します。

■日時 5月13日(土)～28日(日)

会場 日南町美術館

【人文部門】

「写真で見る昭和の暮らし」

社会の変化によって忘れられつつある昭和の生活を、県民の方々から寄せられた写真と映像で紹介いたします。

■日時 8月5日(土)～21日(月)

会場 倉吉市倉吉博物館

■日時 10月7日(土)～23日(月)

会場 伯耆町岸本公民館

■日時 11月11日(土)～27日(月)

会場 八頭町郡家公民館

■日時 1月11日(木)～29日(月)

会場 北栄町北条歴史民俗資料館

■日時 2月8日(木)～3月13日(火)

会場 智頭町「石谷家住宅」一号蔵

【美術部門】

「県立博物館所蔵美術品展」

鳥取県立博物館が所蔵している様々な美術品(洋画・日本画・版画・彫刻・工芸)の中から、テーマを決めて作品を選び、紹介します。

■日時 10月14日(土)～29日(日)

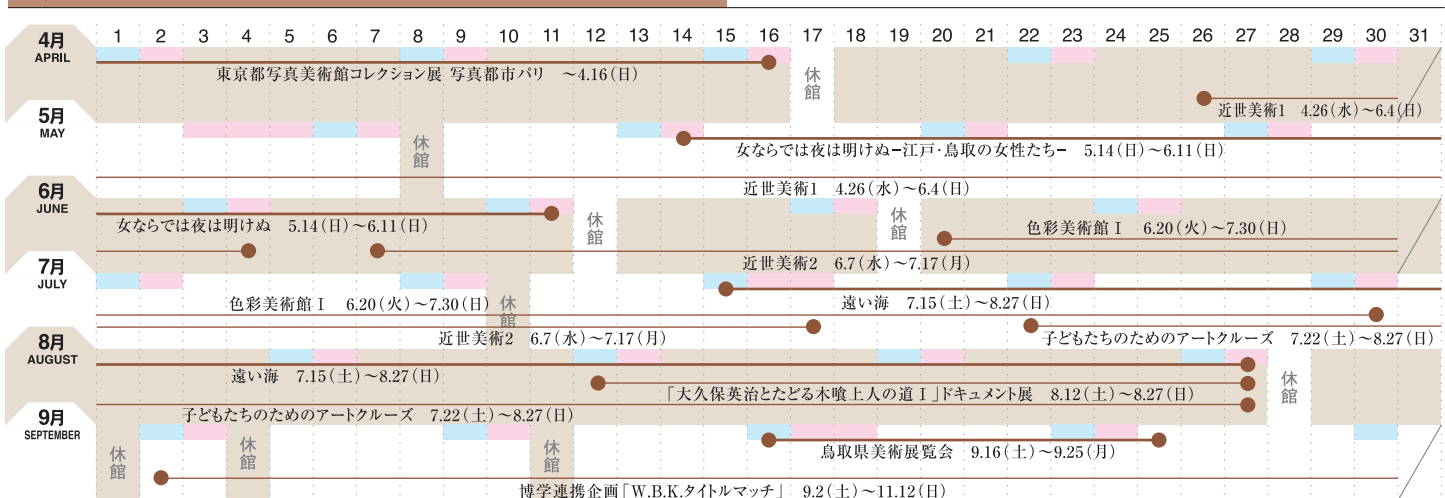
会場 日南町美術館

■日時 11月2日(木)～28日(火)

会場 智頭町「石谷家住宅」一号蔵

2006 4 APR.	《野外観覧会》学芸員と楽しむ動物ウォッチング	日時 4月22日(土) 9時~12時 会場 鳥取市柳路公園	身近な動物を野外で観察し、その生態を学習するとともに自然保護への認識を深めます。小学生以上(小学生は原則として保護者同伴)、定員30名(先着順)、要申込	アーティストと一緒に博物館を楽しむ。つくりあそびズム!Vol.4	日時 8月8日(火)~20日(日) 会場 博物館第2特別展示室	博物館大撮影会 作品展示 ワークショップで撮影した作品を展示します。
	《天体観望会》春の星を見る会	日時 4月29日(土・祝) 19時~21時 会場 博物館前庭	しし座、おとめ座、火星、土星等の観察をします。(雨天・曇天は翌日に延期)小学生以上(小学生は保護者同伴)、持参品:双眼鏡・図鑑(もっている方のみ)	《人文講座》体験考古学講座 石器を作る	日時 8月13日(日) 10時~13時30分 会場 博物館会議室	黒曜石などを実際に削って、石器を作ります。小学校高学年とその保護者、定員各回40名(先着順)、要申込、参加料:300円
2006 5 MAY.	《アートシアター》「フランク・ロイド・ライト」	日時 5月14日(日) 14時~16時 会場 博物館講堂	800件以上にも及ぶ多種多様な作品を設計した建築家・フランク・ロイド・ライトを紹介いたします。定員:各回250名	《天体観望会》夏の星を見る会2	日時 8月19日(土) 19時30分~21時30分 会場 博物館前庭	こと座、わし座、はくちょう座、木星等の観察をします。(雨天・曇天は翌日に延期)小学生以上(小学生は原則として保護者同伴)、持参品:双眼鏡・図鑑(もっている方のみ)
	《地質見学会》烏ヶ山火砕流台地に行く	日時 5月21日(日) 9時30分~14時 集合 倉吉市関金町大山地駐車場	大山地山系の一つ烏ヶ山の火砕流台地の生い立ちを探りながら、山と谷と平地のおりなす景色を観察します。小学生以上(小学生は保護者同伴)、定員30名(先着順)、要申込、参加料:50円(保険料)	《自然講座》標本を調べる会	日時 8月20日(日) 10時~15時 会場 博物館会議室	植物・昆虫・貝類・岩石・化石等の標本の名前を調べます。小学生以上(小学生は保護者同伴)、持参品:標本、筆記用具、メモ用紙(付箋)
2006 6 JUN.	《人文講座》体験考古学講座 古代生活を体験する	日時 6月11日(日) 9時30分~13時30分 会場 鳥取砂丘柳茶屋キャンプ場	土器や石斧を実際に使い、古代人の生活を体験します。小学校5・6年生とその保護者、定員40名(先着順)、要申込、参加料:500円	《アートシアター》映画「議事堂を梱包する」(1996/ドイツ)	日時 8月20日(日) 14時~16時 会場 博物館講堂	クリストによる、ベルリンの旧帝国議会議事堂を銀色の布とロープで梱包するプロジェクトの記録です。定員:各回250名
	《学芸員講座》鳥取県の祭り・行事	日時 6月18日(日) 14時~15時30分 会場 博物館講堂	鳥取県の祭り・行事調査の成果を報告します。	《学芸員講座》鳴く虫の聞き分け講座	日時 9月3日(日) 14時~15時30分 会場 博物館会議室	虫たちの音のコミュニケーションの意味や鳴くしくみ、そして鳴いている自然環境などについて紹介します。一般(小・中学生、高校生でも可)、定員約40名(先着順)
2006 7 JUL.	《アートシアター》「バルテュス」	日時 6月25日(日) 14時~16時 会場 博物館講堂	今世紀最高の幻想画家バルテュスと勝新太郎。唯一無二の芸術家をとらえた貴重なドキュメントです。定員:各回250名	《人文講座》体験考古学講座 ガラス玉を作る	日時 9月10日(日) 13時~ 会場 博物館地下駐車場	古代のビーズ「ガラス玉」を作ります。小学校高学年とその保護者、定員40名(先着順)、要申込、参加料:300円
	《人文講座》体験考古学講座 勾玉を作る	日時 7月9日(日) 10時~13時30分 会場 博物館会議室	古代のアクセサリー「勾玉」を、滑石を削って作ります。小学校高学年とその保護者、定員各回40名(先着順)、要申込、参加料:200円	《人文講座》日本100年 大正デモクラシー	日時 9月17日(日) 14時~15時 会場 博物館講堂	大正期の日本と県内の様子を、映像と学芸員の解説で紹介いたします。
2006 8 AUG.	《天体観望会》夏の星を見る会1	日時 7月22日(土) 19時30分~21時30分 会場 博物館前庭	こと座、わし座、はくちょう座、木星等の観察をします。(雨天・曇天は中止)小学生以上(小学生は保護者同伴) 持参品:双眼鏡・図鑑(もっている方のみ)	《学芸員講座》博学連携事業の一事例 ~W.B.K.タイトルマッチとは~	日時 9月23日(土・祝) 14時~ 会場 博物館会議室	学芸員と中学校美術科教員による連携企画展について、その取り組みの過程を含めて紹介します。定員40名
	《自然講座》昆虫標本を作る会	日時 7月30日(日) 13時30分~15時30分 会場 博物館会議室	昆虫標本の作り方について実習します。小学生以上(小学生は原則、保護者同伴)、定員40名(先着順)、要申込	《天体観望会》秋の星を見る会	日時 9月23日(土・祝) 19時~21時 会場 博物館前庭	ベガス座、アンドロメダ座等の星座を観察をします。(雨天・曇天は翌日に延期)小学生以上(小学生は保護者同伴)、持参品:双眼鏡・図鑑(もっている方のみ)、防寒着
2006 9 SEP.	《アートシアター》映画「トントンゴギゴ工場の時間」(2004/日本)	日時 7月30日(日) 14時~16時 会場 博物館講堂	小学生が図工専科の先生と一緒に工作に興ずる様子を映画にした作品です。定員:各回250名	《アートシアター》「ダムタイプpH」	日時 9月24日(日) 14時~16時 会場 博物館講堂	京都を拠点に独特のパフォーマンスを展開するダムタイプによる、鋭くかつコミカルに消費社会を捉えた代表作。定員:各回250名
	《野外観覧会》秋の鳴く虫の夕べ	日時 9月30日(土) 18時30分~20時30分 会場 博物館全域	アーティストと一緒に博物館を楽しむ。つくりあそびズム!Vol.4 博物館大撮影会 ワークショップ/展示、講評会 独自の視点から日常を切り取る二人の写真家を講師に迎え、博物館を舞台に写真撮影会を行います。子ども~一般、定員20名(先着順)、参加料:材料費200円程度	《野外観覧会》キノコを調べる会	日時 10月1日(日) 10時~14時 会場 伯耆町日光公民館	実際にキノコを採集して、その特徴や名前を調べます。小学生以上(小学生は原則として保護者同伴)、定員40名(先着順)、要申込 ※伯耆町の方は伯耆町溝口図書館(0859-62-0717)か日光公民館(0859-63-0306)へ
2006 10 OCT.	《人文講座》鳥取県の民話を聞く会(1)	日時 8月6日(日) 14時~ 会場 博物館歴史民俗常設展示室	復元民家の中で、鳥取県に伝わるお化けの話を中心とする民話を語り聞かせます。小学生とその保護者、参加料:常設展示の入館料	※特別展・企画展の関連行事はP2・P3に掲載。※特に記載がないものは、申込不要、無料です。※申込み・お問い合わせは学芸課(自然・人文部門)または美術振興課(美術部門)へ		

展覧会カレンダー EXHIBITION CALENDAR



編集後記

新普及誌「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」No.1をお届けします。本誌は館主催展覧会と講座・観覧会等の御案内を中心としていますが、自然・人文・美術各担当のページでは、それぞれの個性を生かした記事を掲載しています。年2回の発行で、当博物館についてより深く知っていただける情報誌を目指しています。これからの「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」に、どうぞ御期待ください。

鳥取県立博物館ニュース MUSEUM PRESS No.1

平成18年(2006年)3月20日発行
編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

